

人権情報プラザ 新着図書一覧（令和7年9月登録分）



どなたでもご利用できます。
お気軽にお立ち寄りください。（県庁舎別館1階）

番号	書籍名	出版社	著者	出版年	分野	あらすじ
1	生きる言葉	新潮社	俵 万智	2025	人権総論	スマホとネットが日常の一部となり、顔の見えない人ともコミュニケーションできる現代社会は、便利な反面、やっかいでもある。言葉の力が生きる力とも言える時代に、日本語の足腰をどう鍛えるか、大切なことは何か―恋愛、子育て、ドラマ、歌会、SNS、AIなど、様々なシーンでの言葉のつかい方を、歌人ならではの視点で、実体験をふまえて考察する。
2	ルポ 子どもへの性暴力	朝日新聞出版	朝日新聞取材班	2024	子ども	第24回石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞奨励賞受賞。大反響を呼んだ朝日新聞連載、待望の書籍化。家族や教師からの性暴力、児童買春、性的盗撮、痴漢、性的いじめ、JKビジネス、デートDV―。計104人、当事者たちの証言。
3	言えないことをしたのは誰？（上）	現代書館	さいきまこ	2024	子ども	中学の養護教諭・莉生（りお）のもとにかかってきた一本の電話。「あなたの学校には時限爆弾が仕掛けられている」 いたずら電話だと思った莉生だったが、やがて電話主と出会い、教師から生徒に行われていた性暴力について知ることになる。そして、そのおぞましい行為は今も校内で続いていた……。被害の連鎖を食い止めるため、そして過去に被害を受けた人間を地獄から救い出すため、莉生の孤独な闘いが始まる――！
4	言えないことをしたのは誰？（下）	現代書館	さいきまこ	2024	子ども	校内で完全に孤立しながらも、生徒への性暴力の常習者を少しずつ追い詰め、立ち向かっていく莉生（りお）。新たな被害をなんとか食い止めることができ、職員の中にも理解者が少しずつ生まれはじめた。しかし、被害者たちの心身の傷は癒えず、救済の道のリも険しく……。
5	子どもの自殺はなぜ増え続けているのか	集英社	洪井 哲也	2025	子ども	2022年以降、小中高生の自殺者数が3年連続で年間500人を超え、2024年は過去最多となった。大人の自殺者数が減少傾向にあるなか、なぜ子どもの自殺だけが増え続けているのか。虐待、市販薬の過剰摂取（オーバードーズ）、いじめ、「指導死」。長年にわたり、生きづらさを抱える子ども・若者たちのリアルな声に耳を傾けてきたフリーライターが、その背景を詳細にレポート。
6	リエゾン ―子どものこころ診療所―（21）	講談社	ヨンチャン/ 竹村優作	2025	子ども	大人も子供も生きづらさを抱える現代。悩める親子に向き合う“児童精神科医”を描く、新たな医療漫画の完結作。2023年度TVドラマ化。 第21巻は緩和ケア編と診察編を収録。
7	成瀬は天下を取りに行く	新潮社	宮島 未奈	2025	子ども	2024年、本屋大賞を受賞した匠巻の青春小説！ 中学二年生の成瀬あかり。周囲から「変わった子」と思われ孤立しても、自分の信じた道を進む。今日も全力で我が道をつき進む成瀬から、きっと誰も目が離せない。
8	胚培養士（はいばいようし）ミズイロ 8	小学館	おかざき真里	2025	医療	第 29 回手塚治虫文化賞マンガ大賞、最終候補ノミネート！漫画賞続々入賞！ 重版止まらず！！ 第8巻は、産み月コントロール編、父親になることに不安を抱く男性患者編を収録。
9	Shrink～精神科医ヨワイ～ 16	集英社	月子/七海仁	2025	医療	令和6年8月、中村倫也主演でNHKでドラマ化。精神科クリニックを舞台にした医療マンガ。 第16巻は「統合失調症編」を収録。
10	小泉八雲―漂泊の作家ラフカディオ・ハーンの生涯	毎日新聞出版	工藤 美代子	2025	外国人	25年度秋NHK朝の連続ドラマ「ばけげ」で話題の作家、ラフカディオ・ハーン(小泉八雲)。ジャーナリスト、旅行作家として各地を放浪した作家が終のすみかとして日本にたどり付くまで。
11	「イスラエル人」の世界観	毎日新聞出版	大治 朋子	2025	外国人	なぜ、世界中から非難されても彼らは報復を止めないのか。国家の存亡をかけた「悪との戦い」。新聞協会賞2年連続受賞＆ポン・上田記念国際記者賞受賞。ワシントン特派員、エルサレム支局長などを歴任。特派員、研究者、ボランティアとして現地に6年半暮らした特異な経験をもとに、歴史的経緯から紡ぎ出されるイスラエルの「光」と「闇」の世界を徹底解説。
12	暴走正義	幻冬舎	下村 敦史	2025	その他の人権	正義を見破れ！誰が悪い？みんなが悪い！みんな悪くない！？今日もスマホを握りしめ怒っている「正義系」の私たちのための常識大逆転ミステリ。
13	日本人拉致	岩波書店	蓮池 薫	2025	その他の人権	「日本に戻ったら、そのまま日本で暮らすべきだよ」突如自由を奪われ、独裁体制下で生きた二四年。北朝鮮からの帰国を後押ししたのは、現地に暮らすある人の言葉だった。私はなぜ拉致されたのか？「マインドコントロール」「革命教育」の現実とは。国家に生を翻弄された当事者が知り得たすべてを記す。
14	国宝(上)青春篇	朝日新聞出版	吉田 修一	2021	その他	著者は、「パーク・ライフ」で芥川賞を受賞した、吉田 修一 氏。 2025年俳優、吉沢亮が主演する映画「国宝」の原著作本。 1964年元旦、侠客たちの抗争の渦中で、この国の宝となる役者は生まれた。男の名は、立花喜久雄。任侠の家に生まれながらも、その美貌を見初められ、上方歌舞伎の大名跡の一門へ。極道と梨園、生き立ちも才能も違う俊介と出会い、若き二人は芸の道に青春を捧げていく。
15	国宝(下)花道篇	朝日新聞出版	吉田 修一	2021	その他	舞台、映画、テレビと芸能界の激変期を駆け抜け、数多の歓喜と絶望を享受しながらも、芝居だけに生きてきた男たち。血族との深い絆と軋み、スキャンダルと栄光、幾重もの信頼と裏切り。芸の頂点へと登りつめ、命を賭してなお追い求める夢のかたちは―。